商店建築

9

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN / INTERIOR / ARCHITECTURE 2016 Vol.61 No.09

平成28年9月1日発行 毎月1回1日発行 昭和31年9月12日第3種郵便物認可 第619号 通巻705号

New Shop & Environment

PARK HYATT GUANGZHOU

HOSHINOYA TOKYO

Special Feature

INSTALLATION & EXHIBITION DESIGN

Feature Article

Craft Beer Bar / Boutique

アルミ板とコンクリートの塊が詩的に置かれたブティック

JULIEN DAVID JINGUMAE SHOP

Boutique JULIEN DAVID JINGUMAE SHOP, Tokyo
Designer ciguë

設計／シグー
施工／page+ONE　シグー　ACID（アルミ什器）
撮影／ナカサ＆パートナーズ

店内奥からエントランス方向を見返す。店内には、「トーテム」と名付けられた、コンクリートとアルミ板でつくられた什器が、散らばるように置かれている。アルミパネル製の什器はあえてエントランス方向に背を向けて置かれており、客が回り込んで商品を探すようなデザインとした

上／店内を見通す。2013年7月に開業したショップを、今回拡張リニューアルした。什器は移動可能で、コレクションが変わるごとに配置を変更できるよう想定されている　下／エントランス付近から店内を見る。右手のガラス面からは陽光が差し込む

抽象化された都会を取り入れる

東京・神宮前にオープンした「ジュリアン デイヴィッド」は、ショップだけが目的ではなく、仕事場と展示空間が備わるという多機能性を持ち合わせている。機敏で迅速な行動力の持ち主であるジュリアンは、コラージュやパッチワーク的な創造力を発揮し続けており、そこから生まれるコレクションを引き立たせるには、「静寂さ」というミニマルなデザイン手法が求められていると感じた。

そこで、抽象化された都会の様子を内部空間に取り入れた。ある一着に魅了されて店内に入ると、目印や境界を失い、屋外か屋内か分からなくなるような錯覚を起こすだろう。まるで外壁のような壁面のテクスチャーもその一例だ。オブジェのような演出効果を持つタワー什器は、エントランスから全商品を見渡せるのではなく、小さな演出を次々と発見していく美術館での体験のように計画した。衣服、靴、帽子、スカーフなどの商品に応じて、什器の機能も「掛ける」「置く」などの用途やサイズが異なるが、空間の中では同じひとまとまりのツールボックスでもある。

これらの什器は、開放的かつ閉鎖的、また、まとめたり散在させたりと、空間を自由自在に使用することを可能にする。

什器の配置によっては、店舗の中心部に、ジュリアンの遊び心に応える、体験するためのオープンスペースを生み出すこともできる。〈シグー〉